

2025年 富田林市立図書館から、 5年生・6年生のみなさんへ

サーファーガール かがやく波に乗れ！

麻生 かづこ／作
かわい ちひろ／絵
小峰書店



海の近くに引っ越してきた5年生のひなた。海で束沙（たばさ）というサーフィンがとても上手な女の子に出会います。ひなたは束沙にさそわれて、サーフィンをはじめます。お母さんに反対（はんたい）されますが、サーフィンが楽しくてやめられません。青い空。コバルトブルーの海。サーフボードが波を走るスピード感。オフショアでいい波がきた！テイクオフ！

わたしのカレーな夏休み

谷口 雅美／著
講談社



カレー好きのハルカは夏休みに大阪の花咲町でカレー屋をはなきまち営む叔父（おじ）さんの所で過ごすことに決めた。花咲町では同い年のショウやタツキと友達になり、毎日楽しく過ごしている。この町では夏休みにワンコインイベントがあり、3人はそのイベントで新作カレーを作ることになった。イベントの成功のために3人は力を合わせていく。

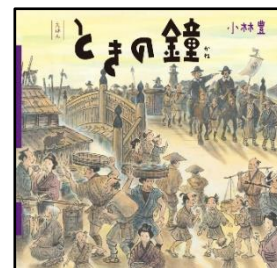
夏のおてがみ

図書館には、楽しい本がたくさんありますよ。

夏休みに、遊びにきてくださいね。

えほん ときの鐘

小林 豊／作・絵
ポプラ社



うんが運（うん）河のまちオランダで、かねおと鐘（かね）の音がきこえます。その鐘は300年以上前の日本のものでした。江戸（えど）の日本橋（にほんばし）には、春になるとながさき長崎のオランダ商館からオランダ人が将軍（しょうぐん）に会うためにやって来（こ）ます。一行（いっこう）は宿（やど）から出てはいけ（い）ないのですが、若い植物学者（しょくぶつがくしゃ）ヤンは、こっそりと江戸（えど）を見物（けんぶつ）。そこでかくれんぼをして遊（あそ）んでいた新吉（しんきち）と出会（であ）いました。

アナトールパリの空をとぶ

イブ・タイタス／さく
ポール・ガルドン／え
石津 ちひろ／やく
好学社



ある日、ねずみのアナトールは自転車で走っている時に、大通りで古い凧（たこ）を見つけました。家に持ち帰ると子どもたちは大はしゃぎ。さっそくみんなでやぶれたところを直（ただ）します。もっとすてきになるように絵を描（え）いていると、どこからか強い風が吹きつけてきました。凧はみんなを乗せたまま、上へ上へと空高くとんでいきます。このシリーズには「アナトールとねこ」があります。

生き抜く力を身につけよう 沖縄ターザンの冒険ずかん

Kidzy（キジー）／著
幻冬舎



おきなわ年間300日、沖縄（しぎゅう）の海や山で自給自足の生活（じきゅうじそく）をしている沖縄ターザンのキジーから、サバイバルの知恵（ちえ）を学んでみよう！葉っぱ（はっぱ）で作（つく）る帽子（ぼうし）やコップ、イノシシ（ごくい）狩りの極意（ごくい）、危険（きけん）を察知（さつち）して対処（たいし）する方法など、野生（うやま）を楽しみ（うやま）敬（こ）いながら、自然（しぜん）の中で「生きる力」を身につけていくキジー流（りゅう）のサバイバル術（じゆつ）がたっぷり味わえる1冊（ふ）です。

ひき石と24丁のとうふ

大西 暢夫／著
アリス館



いわてけん（岩手県）にのへ（二戸市）しじょうぼうじまち（浄法寺町）ひとざと（人里）はなれた山奥（やまおく）にぽつんとある1軒（けん）の家（いえ）。“ミナおばあちゃん（昔ながら）の手作り（てうふ）豆腐（とうふ）”と書（か）かれた看板（かか）が掲（か）げられている。90歳（さか）を超（こ）えたミナさんの豆腐（とうふ）づくりは、にしょうごう（二升五合）大豆（だいず）を「ひき石（ひきいし）」で6時間（ろくりく）挽（ひ）くことから始（は）まります。労力（ろうりき）や時間（じかん）をかけ、豆腐（とうふ）を作るミナさん（すがた）の姿（すがた）を写真（しや）で伝（つた）える一冊（ふ）です。

歴史と今がわかる！ 世界のお金図鑑

①アジア・オセアニア

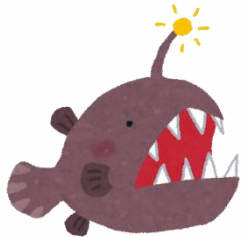
宮路 秀作／監修
汐文社

アジア・オセアニアのお金図鑑。日本では2024年に肖像画が一新され、新紙幣が発行されました。他の国でも、その国のゆかりある人物が多く描かれています。また、人物と一緒に描かれている建物や花なども興味深くみることができます。ぜひ手に取って、お金だけでなく、その国の歴史的背景も一緒に楽しんでみてください。



釣って食べて調べる深海魚

平坂 寛／文
キッチンミノル／写真
長嶋 祐成／絵
福音館書店



深海とは海面から200メートルより深い海のことです。日本は岸から数十分で船が深海部の海へたどりつける、特に「深海に近い国」なのです。「キンメダイの目はなぜ金色？」「ノドグロのノドはなぜ黒いの？」「おいしいけれど食べてはいけない深海魚」そんな謎に満ちた深海魚を、釣って、さばいて、分かりやすく学んでいきます。

エイ・エイ・オー！ ぼくが足軽だった夏

佐々木 ひとみ／作
浮雲 宇一／絵
新日本出版社



5年生の夏、直樹は「杜乃武将隊」に出会う。甲冑を着て演舞をする伊達政宗の姿に心を打ちぬかれる。後日、憧れの政宗公役から「手伝ってほしい」と頼まれた直樹は心躍りながら演舞への参加を決めたが、武将ではなく「ちびっこ足軽」役だった。がっかりした直樹だったが。沢山の人の思いにふれて、直樹が成長していく物語。

迷子のトウモロコシ

嘉成 晴香／作
金の星社

理名は、一年前まで住んでいたアパートへ30分も自転車をこいでやってきた。大好きな近所のおばあちゃんに久しぶりに会いたくなかったからだ。部屋の前で、おばあちゃんの家族の女の人と出会った。おばあちゃんのことを聞くと、半年前に天国へ旅立ったと教えてくれた。思わぬ出来事に理名は、まばたきしかできなかった。



空気を変える

地球で生きつづけるために、
今わたしたちができること

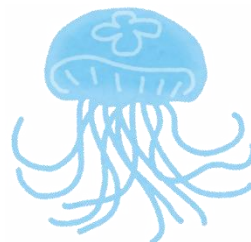
デビー・リヴィ／文
アレックス・ポーズマ／絵
宮坂 宏美／訳
あすなろ書房



「地球温暖化」誰もが耳にしたことがあるのではないのでしょうか。私たちの生活はとても便利になりました。しかし、便利さには代償が伴います。地球は自分を守るため、日々精一杯頑張っています。今後も地球と私たちが力を合わせ、この問題に取り組んでいかななくてはなりません。あなたはどんな手助けができますか。

クラゲのくらし

水口 博也／著
少年写真新聞社



みなさんは、海水浴場や水族館などでクラゲを見たり、さわったりしたことがありますか？クラゲの仲間はおよそ5億年前から地球上にいます。脳も心臓ももたないクラゲがどのようにして暮らし、子孫を残し、この地球で生き続けているのか？美しいクラゲの写真を見ながら、その不思議な生態にふれてみませんか？

読み継がれてきた名作

英語でもよめる スイミー

レオ・レオニ／作
谷川 俊太郎／訳
好学社
2013年



広い海の中に、小さな魚の兄弟たちがくらしていました。赤い兄弟たちのなかで、たった一つぴき、黒い魚がいました。名前はスイミー。そんなある日、まぐろが兄弟たちをのみこんでスイミーだけがのこされました。海の中をぼうけんするスイミーがさいごに見つけたものとは。

この本は、英語でもよめるようになっています。日本語と英語を、いっしょに楽しんでみてください。

